



# 経友会ニュース

## 活動報告

経友会会長

S 49卒 海老沼 利 光

### ◆ 学科名称の変遷に伴う「経友会」のあり方

1960年に経営工学科が発足し、その後、数回の学科名称変更がありました。

経営工学科↓システム情報工学科↓応用情報工学科↓経営システム工学科↓知能情報工学科に改定が行われ、2019年度には知能情報工学科へ名称変更がありました。これに伴って、学科学学生研究会の名称が「経工会」から「知湊会」に変わりました。2023年度には、知能情報工学科1期生の学生が卒業しました。この時点で、経営システム工学科の卒業生がゼロになりました。技術革新と時代ニーズを背景に誕生した新学科名の専門領域が大きく変化しました。添付の資料1「2024年4月時点の教員構成(外部公表資料)」を参照ください。



友会のあり方」を議論しなければと考えています。

### ◆ 今年も「経友会ニュース17号」で活動をお知らせします

経友会の活動をお知らせする「経友会ニュース第17号」を2025年春にお届けします。1期生から累計700名までの卒業生の皆さんへは郵送します。郵送費の値上げに対応した費用の削減を図るために700名以降の卒業生の皆さんへはペーパーレスによる配信をします。郵送でお届けできない会員の皆さん全員へは(個別アドレス登録者のみ)メール配信します。

「経友会ニュースの揭示用」や「訪問挨拶時に手渡しする際など」は「紙によるコミュニケーション」が必須です。ペーパーレス化を考慮しつつも、従来からの「紙」の経友会ニュース発行は今後も継続してゆきます。

### ◆ 「エビ長会」が4年目に突入

経工会と知湊会(旧経工会)の歴代会長経験者と経友会三役を加えたメンバーの「エビ長会」が2021年度に始まり、4年が経過しました。他学科には無い、珍しい形態のOB会であり、2025年度には「エビ長会」の経友会役員会への編入を計画しています。今後経友会役員と若手OB相互の情報交換と学生就活支援に取り組んでゆきます。

### ◆ 「ハイブリッド」による役員会をやっています

ハイブリッド役員会を定例で開催し、事業計画、学生支援活動、予算案

などの企画立案、審議をしています。ハイブリッドでは、移動時間が節約でき、地方で活躍する現役役員とのコミュニケーションができる利点があります。2025年度も、「対面とオンライン」のハイブリッド役員会を実施します。

【資料1】情報工学部知能情報工学科の教員構成 (2024年4月現在：外部公表情報引用)

氏名	職名	研究室	主な担当科目
森 博彦	情報工学部長・教授	人間情報システム	ヒューマン・インターフェイス、認知科学・人間工学
桂 卓成	教授	知的経営システム	ビジネスモデル、企業マネジメント、経営情報システム
塩本 公平	教授	産業システム	ネットワークアルゴリズム、クラウドコンピューティング
神野 健哉	主任教授	産業システム	機械学習・アルゴリズム設計
田中 宏和	教授	人口知能	オペレーションズリサーチ、大規模データ解析応用例、神経数理モデリング
芝 正孝	特任教授	知的経営システム	グローバル企業マネジメント、専門キャリアデザイン、特別講義
穴田 一	講師	人間情報システム	コンピューテーショナルモデリング、シミュレーション基礎、時系列解析
岡 誠	講師	人間情報システム	人間工学・プログラミング、人間情報システム演習/人間中心設計演習
NINA Sviridova	講師	大規模データ解析	データサイエンス基礎、データ解析演習、基礎確率統計
薩川 亘昭	技士	情報システム室	
藤田 裕治	技士	情報システム室	



2025年2月5日(土) 14:00~18:00 東京都市大学 世田谷キャンパス  
同時オンライン配信の映写会(校友会 皆川会長の解説で校友会制作ビデオ「大学のあゆみ」の視聴)と懇親会を神奈川・湘南支部と合同で開催しました。



## 2024年度 経友会総会

## 知能情報工学科の現況

知能情報工学科主任教授 野 健 哉

2024年4月より知能情報工学科の主任教授を務めております神野健哉と申します。本稿では、知能情報工学科の現状と取り組みについてご紹介いたします。

知能情報工学科は、2019年にスタートし、今年で設立から6年目を迎えました。2022年には、5階建ての新10号館が竣工し、知能情報工学科の全研究室が10号館5階に移転しました。さらに、2024年10月には新10号館B棟が完成し、その5階には知能情報工学科専用の共用演習室が設置されました。この教室は、知能情報工学科の専門科目の多くで活用され、より専門的かつ実践的な教育環境が整備されています。

学部教育と大学院教育の両面で進展が見られる中、2023年3月に卒業した知能情報工学科の一期生の中から、20名ほどの学生が総合理工学研究科情報専攻博士前期課程に進学しました。彼らは2025年3月に修了を迎える予定であり、これにより学部生と大学院生が揃い、学科としての体制が一層充実することになります。

学科設立から現在までの6年間で、人工知能に対する社会的関心は劇的に変化しました。特に、2022年11月30日に公開されたChatGPTは、人工知能の可能性を一般の人々に広く知らしめる契機となり、その影響は入学してくる学生や入学希望者の方向性にも表れています。この変化に対応するため、学科カリキュラムの全面的な見直しを行い、2024年入学生から新カリキュラムを導入しました。この新カリキュラムでは、従来の内容に加え、深層学習をはじめとする高度な人工知能技術に関する講義が充実させました。

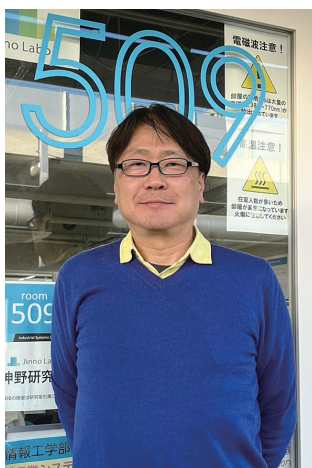
知能情報工学科では、単に人工知能技術

を利用するだけでなく、その原理を深く理解し、応用できる人材の育成を目指しています。この目標を達成するためには、基礎理論と応用技術の両方をバランスよく学べるカリキュラムが不可欠です。具体的には、プログラミングや数学の基礎の徹底的な教育に加え、プロジェクトベースの学習を通じて実践的な能力を養う取り組みを進めています。また、学外連携の強化にも注力しており、企業や研究機関との共同プロジェクトを通じて、学生が実社会での課題に触れる機会を増やしています。

さらに、学生たちの進路選択も多様化してきています。これまでのシステム開発や情報処理技術者といった従来のキャリアに加え、AIを活用した新しい事業創出や研究開発を目指す学生が増加しています。このような時代の流れに合わせ、学科としても新たな挑戦を続けていく所存です。

これに加え、知能情報工学科では国際的な視野を持つ人材の育成も重要視しています。学生たちは、海外の大学や研究機関との交流プログラムに参加する機会を得て、グローバルな視点を養っています。こうした経験は、将来のキャリアにおいて大きな財産となることでしょう。

知能情報工学科は、これからも学生一人ひとりの成長を支え、社会に貢献できる人材を育成する場として進化し続けたいと考えています。今後ともOBの方々からのご支援を頂けると幸いです。



## 連綿と続く同窓のつながりを大切に



土木S54卒  
校友会会長  
皆川 勝

2024年5月に校友会会長に就任いたしました。経友会会員の皆さまに誌面をお借りしてご挨拶できること、嬉しく思っております。

1959（昭和34）年に経営工学科が設置されました。この年は、母校の故八木秀次第3代学長が同窓会館構想を提言した年であり、経営工学科には経営者の子弟も多く在籍されていたことから、同窓会の活動が大きく進展しつつある時期でした。その4年後に経営工学科の同窓会として経友会が創設されて以来、システム情報工学科、応用情報工学科、経営システム工学科と学科名称が変更され、2019年には知能情報工学科に改称されましたが、同窓会としては経友会が一貫して唯一の同窓会として活動されています。学科名称が、その時々々の社会状況、高等教育への社会の要請、担う教員団の方針などで変遷してきたとは言え、母校の恩師の先生方の多くが、一貫して同じ学科の中で教育研究を担い、学生たちと苦楽をともにしてきた歴史があり、その歴史を大切にしつつ、現代の若い卒業生や在学生と共に、同じ学科の卒業生という心持ちを持ち続けていることは、貴重なことだと思います。

現在は、海老沼利光会長のもと、活動が一層進展しているようにお聞きしております。その中でも、経友会ニュース発行や若手会員と会長の継続的な連携活動など、新たな活動を展開されていることに注目して

おります。会員の相互コミュニケーションや若手参画への取り組みは、すべての同窓会の最重要活動です。そういう意味で、他学科の同窓会にとっても大いに見習いたい活動と思っています。また、海老沼会長が校友会の神奈川湘南支部の支部長を務められていることもあり、貴会と同支部が種々の協働プロジェクトを展開されており、これについても、支部と学科同窓会はいわば校友会の縦糸と横糸であり、校友会全体として参考にしてゆきたい活動です。

古い友人や、恩師・先輩との再会は楽しいものです。クラス会、部活や研究室の同輩、先輩、後輩など、年齢差が小さく、スケールの小さいコミュニケーションへの会員の思い入れは強いものがあります。一方、世代を超えた、小さなコミュニティにとどまらない人間関係の中から、時がある人の人生を大きく左右するような出会いが生まれることが、同窓会活動のダイナミズムでもあると思います。多くの若い会員たちが、先輩の温かい助言やサポートによって、自分のキャリアパスを見出しています。また、先輩の一言が仕事の行き詰まりを突破するきっかけを与えた例も多くあります。ぜひ経友会会員みなさまにも、連綿とつづく同窓の輪の一つであるという意識を持たれて、仕事、プライベート、社会的活動という人生の柱に力強い横糸を通されることを希望いたします。

末筆ですが、校友会では2029年の母校百周年を目指して、母校の歴史的な遺産の一つとして卒業アルバムの借用・収集とデジタル化を進めています。経友会関係では、1967、1968、1969、1971、1973年の3月卒業時に制作された卒業アルバムを個人で保管されている方がいらっしやいましたら校友会事務局にご一報ください。



RINGプロジェクト

知能情報工学科 R5卒  
経友会幹事 高橋 知里

RINGプロジェクト——この名前を聞いてピンとくる方はいらつしやるでしょうか？

私たちRINGプロジェクトは、2013年以降の卒業生である若い世代の皆さんに、校友会活動への関心を持ってもらうことをミッションに掲げ発足しました。スノーボード、サバイバルゲーム、バスツアー、ボードゲームなど、多彩な企画を通じて、新しい出会いやつながりを生む場を提供しています。実は私自身も、そうした企画の魅力に惹かれて参加し、気づけばリーダーを務めるまでになりました。私たちは企画を立てる際、「自分たちは



楽しめるのか？」という視点を大切にしています。自分たちが心から熱中できない企画では、参加者の皆さんにも楽しんでいただけないと考えているからです。特に私は、個人ではなかなか経験できないような特別な体験の企画することによりがいを感じています。そのため、未経験のテーマに挑戦することも多く、準備に時間がかかったり、不安を感じたりすることもあります。それでも、どのイベントも終わった後には「やってよかった！」と心から実感しています。きつと皆さんにも「楽しかった！」と感じていただけるはずです。

同じ大学を卒業した仲間同士、このまま何のつながりもなく過ごすのは少し寂しくありませんか？ぜひ私たちと一緒に、同窓生の輪を広げ、新しいつながりと特別な思い出を作りましょう！

「都市大校友オンライン」で繋がる

S55卒 経友会副会長 金子 正樹

2024年4月より経友会の代表として校友会の副会長を務めさせていただいております。

その任務の中で全国の地方支部の総会に参加させていただき地方在住の経友会員の皆様と交流する機会がありました。

広島支部の渡辺秀樹支部長（S55卒）河野啓一様（S55卒）、宮城支部の百々正喜様（S38卒 経営一期生）、福岡支部の鐘川邦次郎様（S45卒）とお会いできて楽しく懇談させていただきました。

地方支部に参加させていた際には校友会の概略や活動内容、大学の近況等をプレゼンさせていただきました。地方の会員の皆様からご要望をお聞きし校友会の活動改善につなげております。

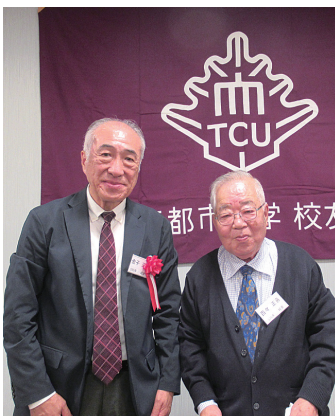
副会長の任期3年間に各地方支部に参加させていただきますので地方在住の経友会員の皆様と支部総会でお会いできるとありがたいと思います。支部役員の方は新しい参加者を大歓迎してくれます。校友オンラインにメールアドレスを登録していただければ案内が届きますのでベテランの方、若手の方も気おくれすること無く参加をお願いします。経営工学科から知能情報工学科と母体の学科の変遷や最近の大学・学生の様子や昔ばなしに花を咲かせたいと思います。

よろしくお願いたします。

下記のQRコードより「都市大校友オンライン」へご登録下さい。



福岡支部総会 右端：鐘川邦次郎様



宮城支部総会 右：百々正喜様



広島支部総会



## 「エビ会」から「エビ長会」へ



R1卒  
経友会副会長  
有馬 秀太

2019年に大学を卒業後、マレリ株式会社(旧カルソニックカンセイ)に入社し、IEを務めております。有馬秀太です。

本稿では、経友会の学生支援団体「エビ会」と若手OB団体「エビ長会」の紹介、およびこれらの活動を踏まえた経友会の今後について述べます。

## 1. エビ会とエビ長会の発足と活動

経友会では、学生支援の一環として海老沼さんを中心とした「エビ会」を開催しています。具体的な活動としては、生産管理関連の座学会、工場見学、就活支援などが行われています。これらの活動は2016年頃から現在に至るまで約9年間続けられています。

私は、エビ会の一期生であり、発足時の発起人の一人です。当時、学生団体である経工会の会長として率いていた私は「経工会」の活動が定まらず行き詰まりを感じていました。その際に、海老沼さんから本活動の提案を受けたことがエビ会開催のきっかけでした。発足当初は「海老沼さん勉強会」という名前でしたが、交流を重ねるうちに親しみを込めて「エビ会」という通称に変わっていったことを覚えています。また、他の参加者も私と同じように感じている方は多いのではないのでしょうか。

また、そんな「エビ会」が今日に至るまで伝統として根付いていることを嬉しく思います。

エビ会の卒業生が増えてきたことから、エビ会出身の若手OB団体で構成された「エビ長会」が発足しました。エビ長会は2ヶ月に一度オンラインで開催され、世代を超えて様々なトクテーマに対して議論する会となっています。近頃では学生の就活支援もスタートしました。

## 2. 経友会の今後を考える

経友会は、エビ会やエビ長会を通じて学生支援や若手OBとの交流を推進していますが、いくつかの課題が存在します。一つの課題として、学科の名称とカリキュラム変更(経営システム工学→知能情報工学科)によって学生の志向性が大きく変わり、現役世代学生のニーズマッチした支援が難しくなったことが挙げられます。

この課題に対しては、柔軟に対応していく必要があります。長期的な視点としては、以下の方針を考えています。

- 経友会は横浜キャンパス側の学科学生会と合併または独立し、横浜キャンパスの大久保研系列の学生の支援を行う
- 知能工学科から新たなOB団体(仮称・知凌OB会)を設立し、知能情報工学科を支援する

短期・中期的な視点としては、以下の方針を考えています。

- 知奏会の縦連携の強化、エビ長会や知奏会を通じて知能情報工学科のOB団体の人員確保を図る
- 新設OB団体を経友会に内包し、サポートする
- 横浜キャンパスの学科学生会との連携と大久保研との連携の継続

このような改革については、一朝一夕で進められるものではないため、関係各所の合意を得ながら慎重に進めていく所存です。

## 知凌会の始まりと足跡



知能情報工学科  
R5卒  
経友会幹事  
大原 拓真

## 「経工会」の名前を「知凌会」にかえます！

2020年、試験期間最終日の1月29日。溝の口駅から徒歩10分にある閑静なレンタルスペースにて、21名の知能1期生(経工会員)の乾杯とともに、知凌会の活動がスタートしました。

2019年度当時、学科全体に占めるカリキュラムの比重が、経営工学からAI・データサイエンスを中心とした情報工学に変わり、学科名が知能情報工学科へ変更となりました。

私は知能情報工学科の1期生となります。大学へ入学してから半年が経過した頃、経友会や経工会の先輩方と関わる中で、前身の経営システム工学科の学生と知能情報工学科の学生とで、学びたい分野・志望する進路にやや違いがあると感じました。いずれそのギャップはより拡がるのではないかと考え、学科研究会「経工会」の名称も変更することにしました。

知凌会という名前は、当時経工会に所属していた知能1期生から案を募集して作成されました。「知」は知能情報工学科、「凌」は港(みなと)のようにヒトやモノ集まる場所。知能の学生が学内外問わず、あらゆる知性と個性を持ち寄って触発できる団体になりたいという思いから「知凌会」という名前が生まれました。

知凌会の名前を発表して間もなく、コロナ

ウイルス感染拡大の影響により、知凌会の活動は対面活動ができず、オンライン活動を余儀なくされました。多くの障壁があつつも、研究室仮配属前の説明会開催や新人生支援フォーム(知凌会公式LINE)の運営などの活動を続けておりました。

今日ではコロナの猛威はすっかりなくなり、ソーシャルディスタンスという言葉も聞かなくなりました。対面からオンライン、オンラインからハイブリットへ、活動の進め方はより柔軟になったと思います。

しかし、組織運営において活動環境の変化は一長一短、柔軟かつ積極的に活動を進めなければ、その変化の波に吞まれてしまいます。知凌会は今まさにその波の中にいます。気がつけば私も大学を卒業し、社会人2年目となります。卒業した今でも経友会の活動の一環として、「エビ長会」に参加しています。エビ長会では、海老沼さんはじめとする経友会幹事の皆様と学生を支援するための施策を実施するため、定例会を開催しています。

今日では、かつて経工会から知凌会に改名したように、知凌会の同窓会を発足したらどうかという話も出て参りました。知凌会で同窓会を発足することで、今の学生のニーズにより応えられる活動支援ができると考えており、いずれは知凌会活性化に尽力したいと思っています。また、未来の後輩はじめ、同学科を卒業した仲間たちと互いに触発できるような同窓会を目指します。



2020/1/29 知凌会発足